

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 1 5	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Alcoholic beverages and incidence of dementia: 34-year follow-up of the prospective population study of women in Goteborg.</p> <p>アルコール飲料と認知症。スウェーデン、Goteborg での 34 年間の女性の前向き追跡研究</p>	
執筆者	
Mehlig K, Skoog I, Guo X, Schutze M, Gustafson D, Waern M, Ostling S, Bjorkelund C, Lissner L.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Epidemiol. 2008 Mar 15;167(6):684-91.	
キーワード	
アルコール飲酒、認知症、前向き研究、たばこ、ワイン、女性	
要 旨	
<p><b>目的：</b> この研究の目的はアルコール飲料の種類と 34 年間の追跡期間中に発症した認知症との関係に浮いて検討することである。</p> <p><b>方法：</b> 38 歳から 60 歳までの Goteborg 在住の女性からランダムに 1462 人を 1968 年から 1969 年に抽出した。2002 年までに 164 人が認知症と診断された。ベースライン同様に 1974-1975 年、1980-1981 年、1992-1993 年にもアルコール摂取量、生活スタイルや健康因子が調査記録された。解析は Cox 比例ハザードモデルを用いてベースライン、その後の追跡調査の情報を用いて行った。</p> <p><b>結果：</b> ワインは追跡情報を加味したモデルで認知症に保護的であった(hazard ratio(HR)=0.6,95%信頼区間(95%CI) : 0.4-0.8)。特にワインのみの飲酒する女性でこの関係は顕著であった(HR=0.3, 95%CI:0.1-0.8)。喫煙の有無で層別化すると、保護作用は喫煙者で強く表れた。一方でベースライン時のスピリッツの飲酒は認知症のリスクを上昇させるのと同様であった(HR=1.5、95%CI=1.0-2.2)。</p> <p><b>結論：</b> これらの結果はワインとスピリッツとで認知症に対して逆の関連を示している。また保護効果がほかの飲料では見られなかったことから、少なくともワインでみられた関連のいくらかはエタノール以外の成分によって説明されるのだろう。</p>	